

八代の宝から世界の宝へ 妙見祭を彩る人たち

「八代妙見祭の神幸行事」がユネスコ無形文化遺産へ登録されたことを記念して、40ある出し物と祭りを彩る人たちの思いを紹介します。



西片町 唐木 匠さん

妙見祭に参加して終わった後に達成感がありました。歩く中で、知り合いの人など子どもや高齢者の人に声をかけてもらいうれしかったです。今後はもっと観光客に来てもらい、九州三大祭りの中で一番になってほしいです。

西片町 小山 弘行さん

今回は2回目の参加で、八代を代表する行事に参加できてとても光栄です。また機会があれば次も参加したいです。

西片町 上野 一博さん

妙見祭に参加して町内ではなかなか会うことのない人とも交流ができました。これまで通り妙見祭を維持していかれたらと思います。また、以前に比べて若い人の参加が少ないので若い人にもぜひ参加してほしいです。



24 神輿

神輿は相良氏が八代を領していた室町時代から継承されています。1635年に妙見祭復興に尽力した細川三齋によって装束や道具などと一緒に新たに制作・奉納され、現在の形の行列が出来上がりました。

西片町 中田 憲一さん
中田 守さん

妙見祭はみんなが協力しなくてできないものだと感じました。妙見祭に参加できたことは大変名誉なことであり、今後も長く続き、さらなる発展のためにも後継者がが必要です。



25 長刀

この長刀は武器としてはなく、祭礼儀式用です。昔から長刀は作られていましたが、古くは神社に奉納して作刀されたものもあります。数は少なく、行列の長刀が大名行列の名残なのか奉納の名残なのかは、はっきりしていません。

西片町 有馬 俊朗さん

小さい頃から慣れ親しんでいる祭りがユネスコ無形文化遺産に登録されてうれしいです。これからは他地域の祭りに負けなくらい大きくなって、全国の人に見てもらいたいです。

21 弓矢 22 対の槍 23 御太刀

いずれも武士の使う道具で昔の絵巻から復元されたものです。大名行列の警護の名残と言われています。

武士たちはたしなみとして、武術を身に付けなければならぬものでした。

多いものですが、戦などでも武器というよりも身を守る道具としての役割が大きく、大

切に使われていました。そして戦に出なければなら

- 1
- 獅子
- 2
- 花奴
- 3
- 木馬
- 4
- 鉄砲
- 5
- 毛槍
- 6
- 白和幣
- 7
- 籠
- 8
- 笠鉾(獅子)
- 9
- 神馬
- 10
- 神馬奉行
- 11
- 甲冑武者
- 12
- 大麻
- 13
- 大太鼓
- 14
- 神官
- 15
- 阿彌波神
- 16
- 火王・水王・風王
- 17
- 奏楽大太鼓
- 18
- 奏楽
- 19
- 四神旗
- 20
- 紙幣
- 21
- 弓矢
- 22
- 対の槍
- 23
- 御太刀
- 24
- 神輿
- 25
- 長刀
- 26
- 紫髯
- 27
- 首翳
- 28
- 立傘
- 29
- 齋王
- 30
- 笠鉾(本蝶)
- 31
- 笠鉾(蘇鉄)
- 32
- 笠鉾(西王母)
- 33
- 笠鉾(狸々)
- 34
- 笠鉾(蜜柑)
- 35
- 笠鉾(恵比須)
- 36
- 笠鉾(松)
- 37
- 笠鉾(迦陵頻伽)
- 38
- 流錫馬
- 39
- 龜蛇(ガメ)
- 40
- 飾馬(花馬)